

LICENSED PRODUCT

KODAK GRAY SCALE



朝夷巡島記第七編二



13  
939  
32



門 913  
美 939  
18

朝夷巡島記全傳第七編卷之二

東都

松亭金水編輯

大正十五年二月  
花房仙史郎氏寄贈



續輯第三

誠忠諫父與祖父  
密使渡口失路費

そと栄辱ふ因て操と易さる。士人ども猶克が。況や婦女ふもて。世に  
始めの渋谷が計らひ道ありぬ。と思ひ。たゞ大層高堂。舟うらと争ふ。後小  
背えりと思ひ。現人間の住居する家。いかにぬ。と疑り。ま。結構善美と  
盡る。富貴ふ忽地心憂。て君ふ媚と献す。少。君はま。く寵愛あり。綾  
羅の褥珠の床以前。換る歡樂。ふ。その操。さ。ち忘。て。上。る。こと。思ひ。た。これ  
羽林家。の。世。鶴。が。色。の。愛。香。と。美。日。夜。と。う。む。酒。宴。と。設。け。歌。舞。音。曲。の。絶。つ  
間。の。彼。紂。王。の。長。夜。の。娛。楽。も。そ。の。過。下。と。う。え。ける。不。ふ。廣。元。善。信。と。始。先

朝夷巡島記全傳第七編卷之二

と心ある輩の眉と擧めて憂ふるのうら。平生ありと奉るごとくも悔ねば況く  
 諫と奉るべき便もあて心との。且暮小苦む。執権平の時政。年老といひ外戚  
 強て諫むぎ仕ふ在るが。あま顔めて過ふけ心の裡と訝けきと。議ら  
 れ者もよりしと。是より尙北條泰時い。まご若年ありと。忠孝篤く文武を  
 勵ふ人勝り性なれば君廣幡の局と。只管酒宴旋舞の耽るふと悲む。諫め  
 をなると思へども既小祖ありまご父ありと。超て諫と奉らん君父の礼も背けりと。  
 思ふのうら又びがてて密小中野能成小対。近曾君の行状さ。小人君の所為あま。  
 竟小國家の言と生せん在下深く。是と憂へ諫め奉らんと思へども。若年の身と悲むと口  
 と啖ふとありのあり。足下君の寵臣めて。且暮小前侍の身なれば折と見合せ國家  
 の為小強て諫めまうされ。元老の棟めより。却て左右の棟と。容らるるのあり。と亦  
 心竭して言し。中野の例の好侍なれば泰時のまご若輩めて。君の行状と種ふ

議と奉ると言せ。頼家小怒り。渠と祖又時政も。父又時政も言さぬ。若輩の身  
 の分際めて烏澁がま。やと敦圍うら。多時風。殊小思と思ひ。泰時とて北條へ  
 下。隈小鎌倉へ来ぶ。と固く制して。けと泰時の令。背くべきふあ。されば。彼  
 地。至マて。蝨居。且暮小書と讀て。往昔の人と友と。その徒然と慰さぬ。  
 鎌倉のさ。とさ。廣幡の局せと。辞て。君の憂の床小沈。夫より後。北條興。遠  
 ざり。ぬ。とさ。人の死と。欬ぶ。ね。と。の憂へと。除き。と。思ひ。つ。あ。の。の。  
 いま。父より。許され。ね。鎌倉へ。泰。と。猶北條小居。さ。の。頂。陸奥。の。の。  
 城の山論の檢断使。北條氏の計らひ。朝夷。多。近。小。發。足。る。ま。の。風。聞。小。泰  
 時。の。眉。と。擧。め。誠。し。く。ぬ。と。れ。既。小。の。と。分。明。き。り。許。と。る。は。小。國。家。の。大。事。餘  
 所。ふ。て。あ。ま。と。直。小。供。人。の。准。備。き。道。と。早。め。第。二。日。目。の。芳。暮。小。到。る。と。多  
 時。て。何。多。の。若。小。か。う。遠。く。来。さ。る。と。の。泰。時。さ。先。頃。彼。地。下。り。と。后。い。ま

此許は被らねど言すまゝの在り。推て是まで参りては祖又君の洋謁と許しを  
 言ふも何れも知れぬ急の大事とて駐めりしは則時政へ如此と告げ  
 時政北叟咲きも久き渠とて領事といふも多時則ち泰時と其の二間へ伴  
 るべし時政いと奉て近き招きに汝が身の上君より咎めりしは多時君の怒りと  
 忍こも領事領地へ逐遣し真忠のいふ所ぞ此方の慎の。依違も未だ仔細  
 何ぞと尋ねば泰時近習の人と遠き。風小美いと陸奥の。般城山論の檢折使  
 の義秀と遣はさる。當家の討らひなり。此の真忠のいふ所と問は時政も笑ひ大  
 事とて何れも珍事とて思ひしは夫のいふ所と在り。如何も君の命より  
 義秀が命より。名今朝領事發足せり。泰時小膝と進め若輩の身とて恐  
 き言ふ条は少く。像ても知らし如く。陸奥の廣大也。且邊境のゆるぎ。王命更に  
 も届く。動も無頼の悪徒威を逞ちて多と生ぞ。因て国司のその他は守

府と置さる。政と執りひり。右幕府のせん時。總追捕使の命あり。守護地頭と  
 置さる。国政と執りひり。泰衡がゆき。猶その命に従ひ。因て自ら征伐の  
 武徳の限を。國中威服の事。是も。晏駕の後の程も。経任が。城を  
 や動乱の緒とひ。是も。先仲。武功あり。且朝夷の内助とて。静まる間。般城の山論  
 這回のと。小事の似れ。曾て。主民の企。領事。檢折使。當不。定め玉  
 へり。この。總使。沙汰と。俟べし。夫と。背。叛逆。人の。罪。同。か。し。理。と。静  
 め。この。這回。檢折。の。次。身。あり。て。忽。地。乱。と。曳。然。と。檢折。使。の。下。向。す。和。田。島。山  
 の。輩。の。三。浦。土。屋。の。属。也。武功。智。量。の。勝。老。輩。の。克。難。然。と。ま。で  
 若輩の。多。秀。の。命。より。人。と。用。道。の。如。最。多。秀。の。勇。力。の。多。と。專。と。ま。り  
 漢士。の。智。量。の。試。と。老。輩。の。勝。と。ぬ。器。量。の。官。禄。の。入。自。侮  
 べ。侮。と。民。服。せ。何。と。以。て。后。来。の。静。謐。を。ま。す。と。彼。也。既。に。般。城。四。郎。時。直

との守護人あり。渠は則祖父君の目と懸る者ありて諱の字と賜する。規模あれども弱官との且无才の徒るれ。尊と守護の職は居る。然れども知て知て朝事頗る才器ありとも。その威を時直少とも勝せ。道は自然の勢。強賢愚の界あり。思准る。今朝発足する。羽傲と飛と。何の仔細なき。但一面命令あり。忽地更改え。上る者の恥辱。似れ。過て改むる君子の恥る所あり。透境尚も乱と及ぶ。大事あり。その赤心。彰ら。言も敢ぬ。時政の林も齒をひき出。呵と笑ひ。汝才智今始。祖父も甘心せり。然る。支程の。吾も。其才の勇。且。才器と恃。賢が。朝夷。秀。蹴落。思。便。此頃君の。誑。如此。中野が。執次。是。僥倖。秀。大任。万。つ。絆。異。仕課。せ。仕課。せ。

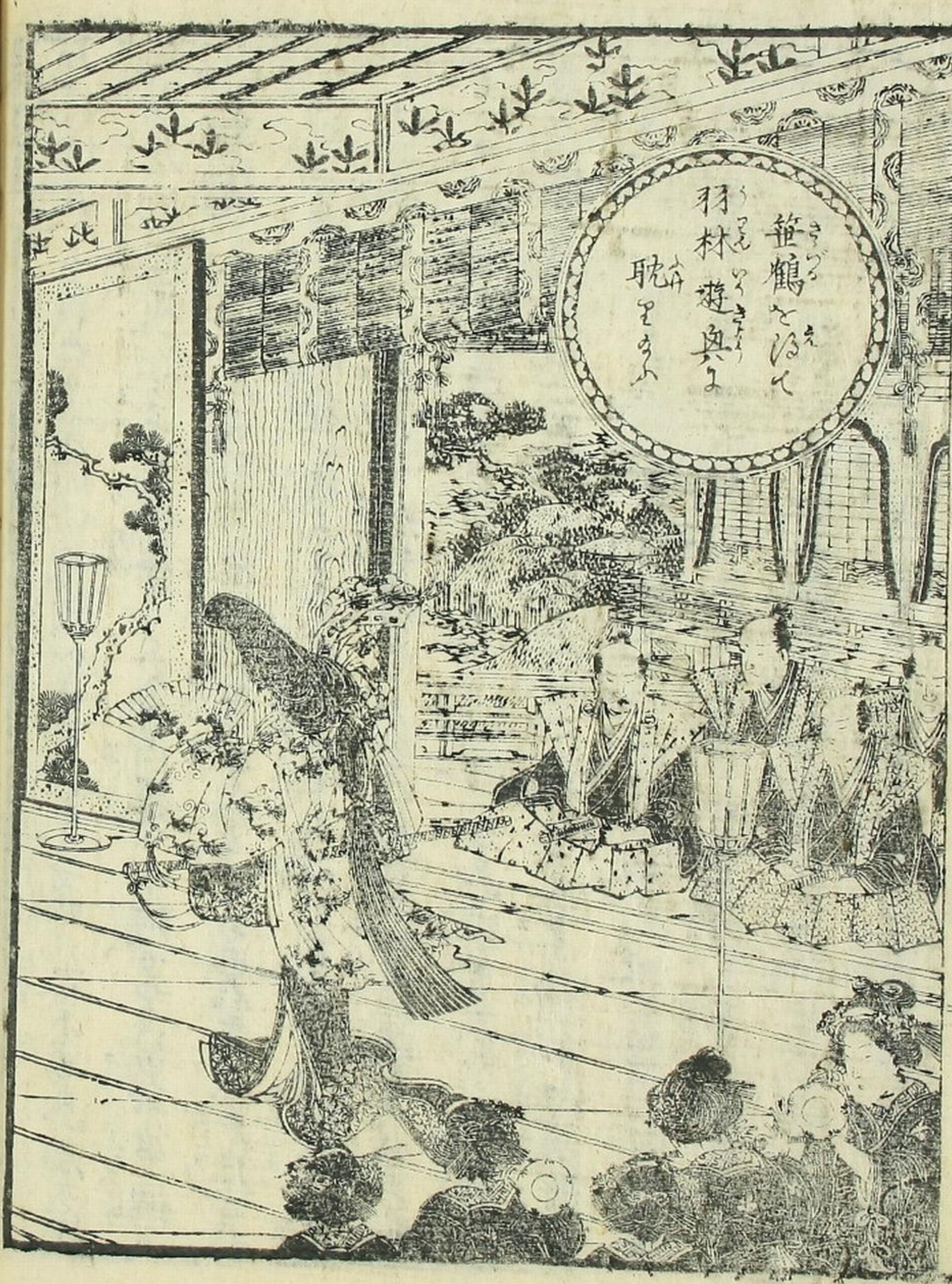
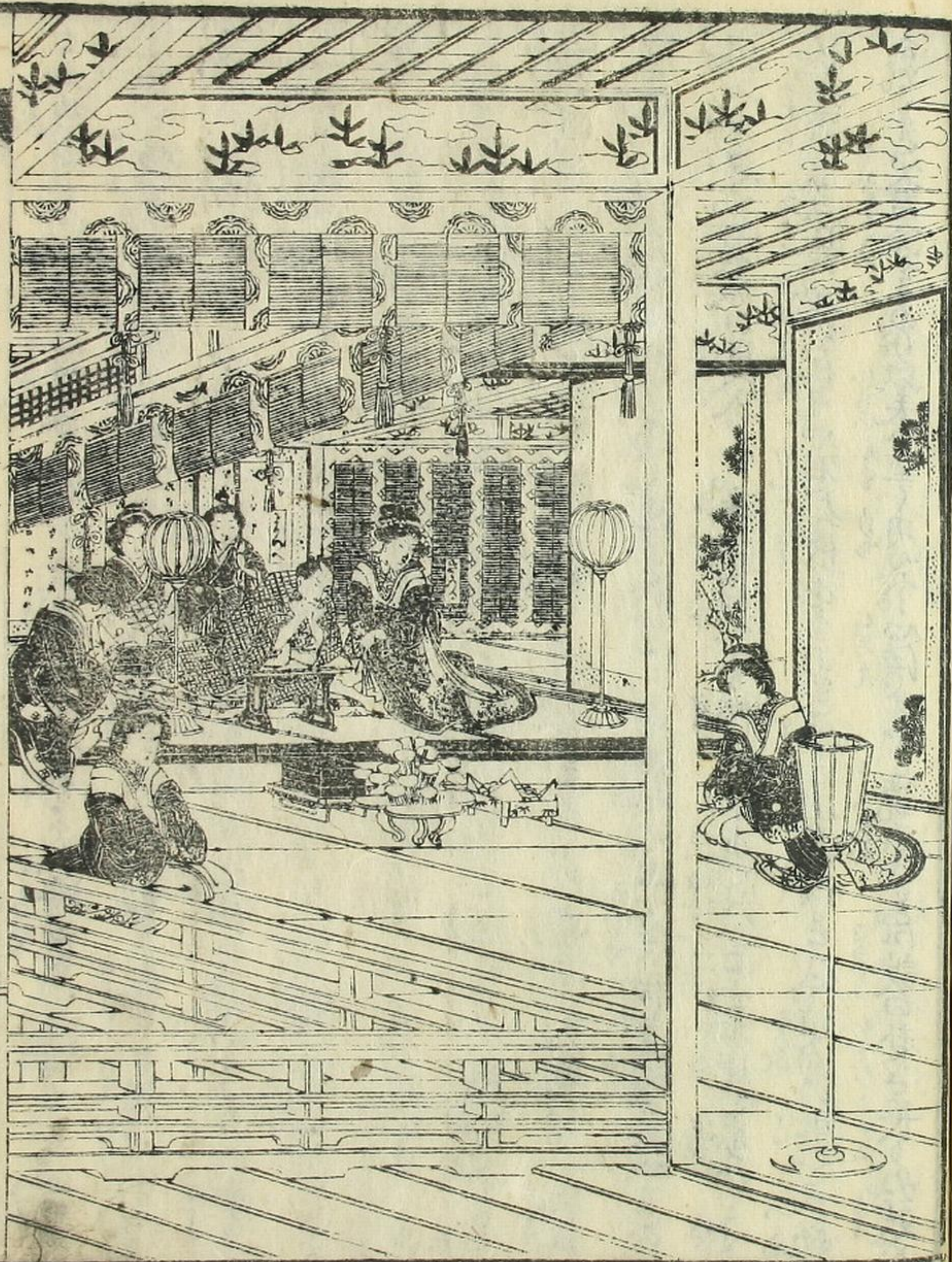
彼奴の憎む。父和田の。右幕府。古老の。自ら。高慢。諸士の。上。居。我意。慕。吾。威。推。吾。深。忌。竟。吾。一家の。者。滅。巧。渠。他。故。其。愛。子。秀。罰。義。盛。威。自然。と。挫。け。諸。士。も。教。事。と。面。全。と。計。術。村。あり。る。亦。怪。む。此。時。と。面。個。の。他。人。一。点。も。洩。ま。て。あ。ら。ね。ど。你。諫。の。意。と。感。極。密。と。明。地。お。知。す。ぞ。泰。時。思。ひ。歎。息。言。と。や。う。は。詞。返。奉。る。恐。く。ひ。ど。計。ら。ひ。と。兼。る。一。向。歎。息。の。他。の。非。の。界。と。辯。へ。然。ど。も。賢。の。過。る。所。小。人。在。下。无。才。小。人。と。彼。受。盛。林。と。上。忠。と。場。一。朋。友。信。義。篤。く。下。と。憐。む。の。士。で。実。先。君。の。眼。鏡。と。侍。所。の。別。當。補。置。と。當。然。然。忠。直。の。武。士。な。れ。時。小。人。推。貴。も。怖。る。已。思。入。包。小。言。述。と。あ。り。て。安。礼。小。人。と。あ。る。也。然。れ。も。忠。直。の。士。の。

家の為死とぞも辞せん。況や権貴と憚りて。口と嚙らる脹とる物と摩りてやいふ。元来心中毫末も巧言令色のみけとる。然と権貴も憚らぬ。我意不募と宣まひと盛盛とま計策めて速く退けり。阿黨の小人の進み昇りて後意。國家の大患とひきき入渠のて家一族と滅えぬのと宣とま。左様の者ふあま當家の君の外戚とて。誰う重んぜざる者もあ。然と常仁惠と施し。実とて軍家と神佐一奉るものあり。謀叛の輩ありとも徳懐きて叛心と翻えんと必定なり。況や盛盛と於てや。這に滅ゆ千慮の失あよれば過ふ。其後さびりやめて。朝夷と召返され他人の批評するん中。の計りひと愿りけれ。言葉の場一涙と流し。理と推て諫めけし。時政の惘然とて更なる。詞あり。空嘯きてあり。時破と眼と睜と。と泰時祖父小附ひ。怜悧振るその諫言尾龍の猶命あり。畢竟家の仇とる。倭人等と退る。子と孫とを事申て後宋と思へり。

夫々のとも辨まて他人と愛親族の情。所謂悖德悖禮あり。先頃も生悧悧。いひ出で。無越君の不與と被る。北條逐下とて後何の沙汰あり。鳥澁る。祖父小附吾と閣と諫め。葉黄口の孺子何とぞ知ん。退出て歸る。今宵一夜も館。足と駐りて无用なり。素頓と逐出と怒り。今更何のひ解術あり。泰時ひ平伏せ。左右の袖と搔合と寢ると蹇り。間の隔紙多時。自礮と建切て。父時政小對ひ。无礼なる渠が奉動。然と怒り。いひけぬ。然と渠が心中。強當家悪れ。言ふもいね。是時の戲。餘の子供と今下。時政の要あり。必跡畧あり。湯島と心け。其許いふ。今宵の密に館に。翌夜あけ北條へ歸り。計りわと。孫

と思ふる。多時畏之。湯島不疑。こと分袂。其才の突へ入る。泰時只嘗ふ。怒の  
 烈しけむ。心そ其処と退出。熟く思ひ廻る。その計りの道の。言ふも足らぬ  
 所為。諫めて止まる勢ひる。や腹心の者なり。他洩さざり。折湯  
 心。小款。夜陰。武吉。何ぞ恐る。即供人と促して。折湯  
 島沸太郎馳来。今も出さる。道の程も便る。実大刀称。此今す  
 る。夜と刃。出せ。其内意。告げ。子と思ひ。親の心。恃る。却  
 却て考。沸太郎。人。隨意。夜の。小明。習。北條。出。けり。  
 嗚呼。北條。父子。奸謀。憎。猶餘。吾と滅。する者。盛。り。と。際  
 め。果。後年。和田。合戦。頗る。先見。の智。ある。似。北條。世。執。権。あ。く。  
 々。慎。守。誰。い。犯。さ。威。小。寡。君。凌。悪。行。超。過。不  
 至。故。北條。氏。高。運。る。西。三。度。寇。不。伐。勝。竟。九。代。の。栄。耀。と。究

ひ。侍。甚。一。の。人。間。估。休。願。か。て。の。翌。日。時。密。湯。島。沸。太。郎  
 と。居。間。へ。喚。近。づ。多。く。の。家。臣。あり。の。も。内。容。の。と。洩。さ。る。更。不。汝。一。個。不  
 限。開。の。豫。心。に。ん。這。回。す。密。計。と。汝。の。委。ね。を。あ。れ。を。次。弟。他。の。志。  
 彼。秀。身。不。志。大。任。と。課。ある。必。定。渠。が。過。え。巧。く。さ。る。猶。熟。く。思  
 ひ。る。渠。の。才。智。閑。く。器。量。勝。り。の。れ。相。心。の。外。仕。課。を。帰。す。未  
 ん。も。當。今。も。然。す。此。方。で。巧。く。こ。の。粗。糲。の。も。渠。等。ま。あ。く。功。小。誇。り。の。  
 あり。當。家。と。無。ま。下。され。の。謀。計。と。新。巧。に。事。す。の。書。翰。の。般。城。四。郎。時。直  
 への。密。書。の。れ。汝。を。持。て。路。を。急。ぎ。朝。夷。の。先。を。彼。地。到。り。譯。と。計。す。の。  
 謀。計。の。簡。様。と。耳。の。傍。へ。口。づ。つ。け。低。語。と。半。响。計。す。尤。書。翰。不。承。女。あ。り。  
 載。り。你。時。直。と。腹。と。合。あ。て。足。る。所。い。補。不。心。薄。く。を。説。示。せ。沸。太。郎。の。額。著  
 畏。今。逸。兼。り。ぬ。在。下。短。き。り。の。か。天。事。の。密。と。委。ね。な。る。根。性。と。宛





々へ故ありんや争う跡田各存ぞき其段心易く時直ゆい縁てより君の  
 陰に被りて磐城の守護とありぬ鶴因忘るべきありまき在下も舊友す絆  
 と討つ極め宜し在下が難多思ふ既朝夷昨日の朝まはれお出  
 う。在下脚の迅速とのふも其道三日後とい渠先立ちて磐城の郡へ入ると  
 難いといせも敢て多時が開け沸太郎心易く朝夷始めより吉見の冠者と交  
 互深し吉見武彦の石古の社に入部せりより對面せむべき序とめて彼処立よ。三  
 三日の逗留く舊友の情と述ま吾も政事の善悪を葉言せし殊ゆるみ太  
 田の莊より彼光仲も出て来べ。まよひのり日ノ費しく五七日の彼処過き然も  
 渠先達て磐城の郡へ入ると普通の者も輒かべ況て汝は日小三里と歩むと  
 け。渠が三日の沙の一日のや石戸へ傍もむと争う渠後まらん。這回の事と  
 むい。まよひのり日ノ費しく五七日の彼処過き然も渠先達て磐城の郡へ入ると  
 渠先達て磐城の郡へ入ると普通の者も輒かべ況て汝は日小三里と歩むと  
 け。渠が三日の沙の一日のや石戸へ傍もむと争う渠後まらん。這回の事と  
 むい。まよひのり日ノ費しく五七日の彼処過き然も渠先達て磐城の郡へ入ると

今より出立て絆は仕課甚心と休奉りんとひけい。時荒示と貞頭。預ては簞笥  
 の裡より黄金の包を出し。是は路費ならず。彼地不在とあは。尚時直より受取  
 べ。といふ沸太郎額着つる黄金と稟収め預て其処と退き。元来家族もる身  
 られ。かゝ折心易く時刻も移る旅装を傍輩も心願あり。今より榎島へ参  
 籠す。初初暇と告ぐ午の貝多頃を以て後倉とて。足任を走る程。武彦  
 荒川の渡口。未あける時。黄昏て出端。月さ白く。生る。沸太郎川  
 邊。枯芦と宿を死。船やあると向う。渡り船と思ふ。人西入来。これ  
 僥倖とふ。招き。あや喃と呼ぶ。心と回答。船漕を故人川と渡。此  
 首。厳多。旋。日暮。人。渡。我。太。罪。毒。故。一。刻。猶。夜。渡。便。又。他。吾。汝。旋。

誰か見ても見ても咎めん鄙人の尻角物頑心はてから類ひのいと多ぞ密小此  
 首と渡すところ方資の心仕せん頃と来せよと切をこころめて船長は漕  
 馬奴船頭乳の人と世の憎むと吾們の邑の農夫は旅稼する轎  
 類ひ寝徒言のありあねど所技と昔きや奴才と彼首へ渡さの方資の多  
 寡もあつて心任せと宣へど方外のとらへせ今船は三個ありその中へ三首の黄  
 金と恵まひ快く向ひの岸へ渡すべしと渠が足元と看おけること心怒り  
 事する使あり黄金と惜間と物と画餅とらんと思ふより望みは仕  
 べ。まう其船と岸へ着ると頃と漕と其黄金と中へ入ると乗  
 込みを疑ひ深き奴等よると口裡は吐きまぐ。桐卷の結目と解き教の如き  
 我て乗せの是と共せん。の船長と舟員と改め票収と船  
 郎の閃と船へ乗移と平生と五支と支暮と三首の餘り過る船は

急な路を跡疾しく絹布の横小宿女を左右に抱て寝るともあれ  
 程の八目のほどと京とてと舟とて一個の船長と舟員と改め票収と船  
 船長と頼り水掉と操る程の船は忽地川の真中へと出せけり當下前  
 漢士が衝をありと声と揚借の放りなりぬ路費と多分と持り吾們當所の  
 農夫のり。まじ暮と此首と渡さ法度といひ。の語。突の懐と拭くの計  
 り。おんが懐中聴ると桐卷の重さやぬ開と来と時と命とをり佐と  
 去来頼り。と罵り沸太郎は怒り。忽地怒り。眼と睜と。のれと名と  
 吾の法倉殿の内。馬一匹のまを。穩密の命と被り。北へと往り。のま。と汝の眼  
 あつて。杖損ひ。愚人們。此首と徘徊。強盗引剥と者。奴。難。暗  
 ずん。自ら名告。悪業。逸。首。落。川。辺。鳥。後。末。の。誠。と。ほ  
 吳んと左と小鯉。日。甘。け。衝。を。わ。物。法。倉。殿。の内。と。鈍。刀。の。尖。刃。と。も

朝鮮世續卷二

夫とて恐まて一日もの活計あるべき。切ら見事切て入るといひも果さ  
身と沈め腰と繫と抱き疎めま湯島透き振解く。後小亭る僻者う刀の  
鑑と下と揪。背の方人然あけて。にいと伸し懐の胴巻とんとする。湯島の  
とと繫と揪。筋斗ううて抱んとまその折一個湯島が。櫛と蹴揚て船縁へ  
撞と倒せ湯島へ。名場をば佩刀とす。と枝とと。うち揮太刀風を  
岸の隈を枯若も。さぎ計アあるをけ。三個の賊。忽地お駈き怖とて水と飛  
入る水の水煙を。繞て三個飛入。往方もある。のり。沸太郎の船端不足  
くひく水面と霎時白眼呵と。太公笑を。狡者の。龍の腮の珠と取ら。鱗鱗の窠  
似る。懐い振とて水底潜。船の敷板操技と。古ひま。吾の食人。此とも早  
くの舟と。四遠と。さる水掉あり。是は侍と操。漸と向ひの岸。着き汀の枯草  
踏を。死踊を揚。て宵月の。四と。信と。入る。怪。き。見。も。あ。れ。今。と。心。易。え。そ。

途と早め往。不。僅。一。里。餘。と。過。て。幽。ふ。え。ま。日。亭。の。立。並。ひ。る。所。あり。や。入。里。の  
近。つ。み。腹。ま。い。て。空。る。ふ。ま。づ。此。処。を。食。と。素。め。月。の。舞。と。終。夜。走。る。も。難。き。と。き。は。と。  
元。来。大。膽。不。敵。る。心。く。と。怖。る。色。の。や。近。づ。き。て。入。る。ま。の。此。の。驛。路。之。林  
る。れ。も。兩。側。家。数。多。し。も。列。の。う。ら。ま。と。時。刻。の。や。遅。さ。う。太。公。門。と。鎖。を。酒。合。と。索  
む。る。家。の。け。い。は。い。は。ふ。り。く。當。感。あ。り。て。往。と。ま。ま。も。半。段。餘。と。あ。る。旅。店。と。覺。え。て。傍。の  
戸。と。鎖。を。れ。と。出。入。の。口。を。と。開。き。て。麴。の。端。の。玉。電。の。大。き。さ。の。る。鍋。の。人。五。六。人。山。坐  
の。枕。は。何。ぞ。盛。て。り。沸。太。郎。の。是。と。は。ら。り。飲。む。さ。し。踊。り。入。り。吾。の。急。ぎ。と。放。す。若  
夜。路。と。厭。む。来。し。も。飢。の。臨。と。困。下。う。酒。ある。散。ある。ま。其。他。の。ゆ。も。食。へ。さ  
物。の。あ。る。う。の。頭。切。て。よ。と。い。ひ。さ。う。傍。の。床。机。小。腰。ち。か。さ。の。婢。女。と。お。し。き。茶。碗  
へ。温。湯。汲。て。来。り。と。や。二。更。の。近。け。ま。大。方。活。か。ま。と。進。り。入。り。の。も。多。く。い。わ。さ。遣。れ。  
二。種。三。種。の。品。あり。酒。の。柄。ふ。て。は。の。望。ま。る。の。進。り。せん。の。湯。島。点。頭。で。酒。を。あ。り。ふ

二種三種の散で緯は足らん。頼むかねと急ぎす。ふゆの婢女。遠く。魁の羹。其  
弱と平芳の煮。血盛。白泡の浮く。鄙酒と湯桶。次て。未ね。その香。紛  
と鼻と穿。湯島大飲。茶碗。波。酌。盛。巨飲。面。皺。多。女の酒。ハ  
少。酸。味。池田伊丹。酒。洗。水。猶。倍。酒。ハ。價。論。ハ  
頼。引。換。持。来。よ。の。婢。女。笑。の。酒。ハ。思。言。ハ。是。の。も  
猶。醇。酒。少。貯。持。下。酒。ハ。價。貴。之。普通。古。物。ハ。始。ハ。進  
ら。然。引。換。あ。せん。昔。あ。と。鮎。子。ハ。未。湯。島。ハ。口。飲。其  
味。ハ。実。ハ。劍。菱。瀧。水。の。味。ハ。超。酒。ハ。古。ハ。味。ハ。稀。代。ハ。鄙。ハ。か。り。醇  
酒。ハ。思。ひ。足。飲。足。腰。の。芳。ハ。頼。ハ。殊。ハ。魁。の。羹。ハ。深。倉。也。も  
味。ハ。初。物。多。頼。ハ。鮎。子。ハ。換。ハ。食。半。酌。許。元。來。強。酒。多。と。飢  
ハ。油。の。如。き。濃。酒。量。ハ。飲。ハ。二。分。の。碎。ハ。香。ハ。過。ハ。の。ハ。け。り。

續輯第四

英雄大冒旅客

説來歴得密書

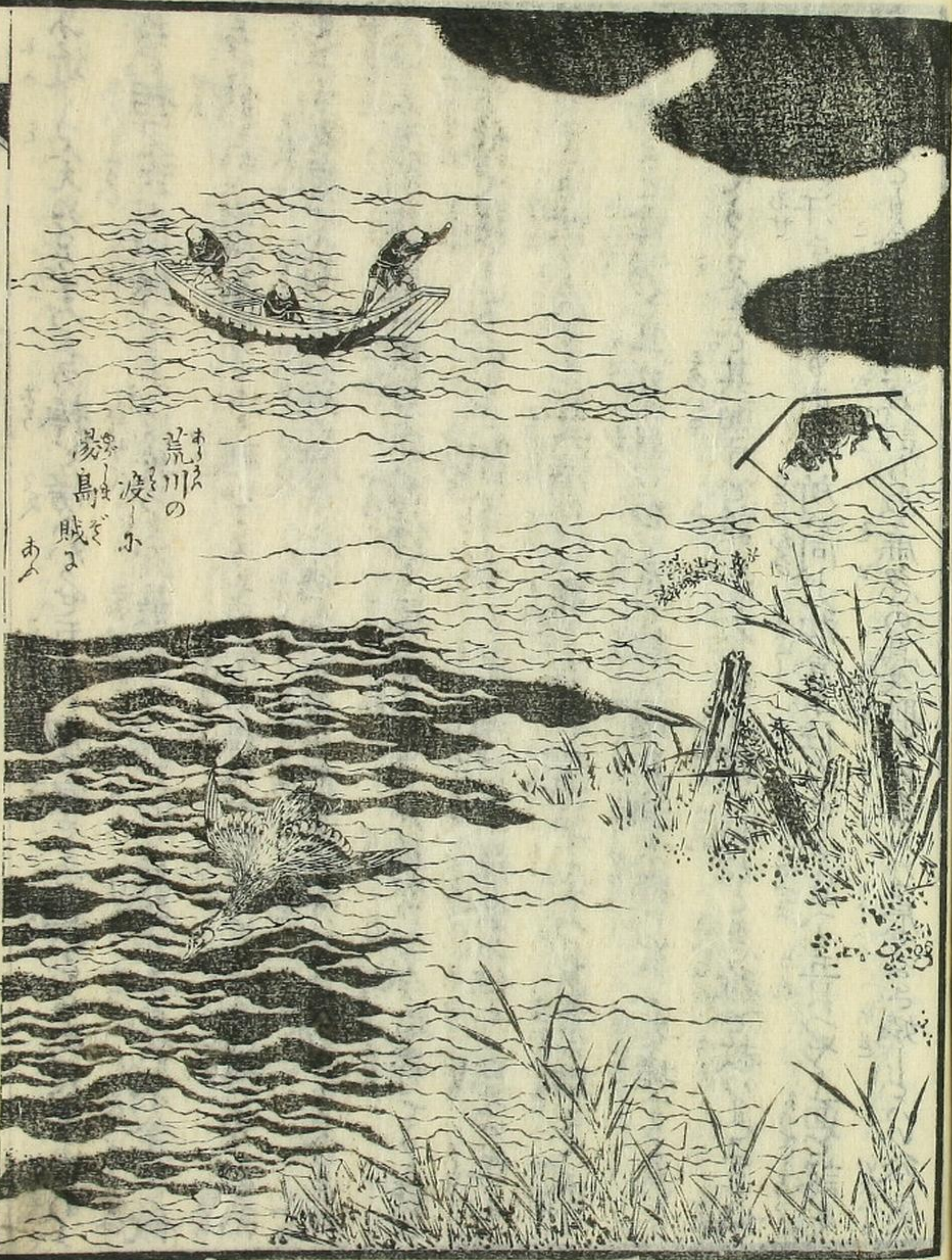
斯て湯島。湯太郎。信。と。思。ふ。大。事。の。使。と。請。多。太。く。酒。ハ。醉。け。る。遊。莫  
の。威。勢。小。走。五。六。里。の。道。ハ。輒。往。々。嗟。地。有。け。り。頼。て。婢。女。と。喚。近。ハ  
價。と。同。不。如。此。と。言。さ。か。て。懐。へ。と。胸。巻。と。搔。探。と。も。小。障。ら。ん。以。前。の。騷  
き。下。ハ。落。し。猶。浴。く。と。腰。の。廻。り。と。探。し。て。井。小。ん。え。ね。且。訝。り。く  
思。ふ。筒。小。這。奴。と。ぞ。揪。ん。と。吾。才。と。沈。め。支。へ。と。空。あ。じ。て。奪。れ。も。勿。論。腹  
へ。掛。し。着。て。落。す。と。不。測。と。之。あ。り。帯。ひ。き。解。さ。と。念。の。と。と。齒。と  
袖。杖。探。せ。と。更。小。あ。と。の。使。ハ。這。奴。と。小。奪。り。と。知。る。と。の。念。の。と。と。齒。と  
切。れ。と。の。甲。斐。り。され。と。の。價。と。拂。と。許。さ。り。と。物。の。り。ち。小  
沈。吟。さ。せ。と。詮。方。と。其。と。と。通。と。の。と。と。と。婢。女。と。と。主。人。と。逢。と。見

けりといへ主人と云へて年の頃二十八九の大漢子。づくと来り。その傍小腰も掛て。  
 客人何の用ある。主人則已と云り。といひ放つて會釈もせん。其処等廻り居る景  
 勢。逆曾无礼も奉動。心五分の怒も萌せ。并々咎むらう。後あり。胸の 沉  
 めて言葉と和らげ。吾の強倉より陸奥へ珠も急ぎの要用あり。往者ある。海暮及  
 び彼処の津で引刺さる。悪見さる。端も。會盤纏と取んとする。不と。吾も嗜免る  
 本事と云く。賊等と懲り。その場も。難く。過て。未の。飢る。心急き。酒食を  
 ろて。その價を。償んと。今。腹小。捨せ。朋卷る。諸。這奴等と。挑。瑞き  
 夫と奪り。夫小。聊心も。着。飽。食ひ。斯の。酒食と。負。悪見。思ひ  
 まん。こそ。武士の。慚愧。堪。所。為。実。今。更。詮。方。吾の。強倉。刀。称。の内  
 あり。二の。人。せ。花。明。け。何。其。刀。称。家。臣。之。仔。細。あ。れ。主。の。名。も。吾。名。も。今。い。言。と  
 け。と。縛。果。て。後。の。処。と。戻。る。折。不。寄。て。倍。と。丈。程。の。報。い。さ。今。宵。の。價。と

其時まで在下小借てよ。餘も。る。げ。言。葉。も。畢。ら。ぬ。此。家。の。主。人。の  
 眼小。角。を。頬。張。ら。く。傍。と。る。此。頃。の。物。慾。心。侍。と。油。断。る。ま。錢。も。て。飲。食。し  
 鎌倉。刀。称。と。蓋。小。着。て。價。も。か。を。往。る。と。す。い。高。小。身。が。津。場。で。會。し。とい。小。刺。ら  
 小。一。段。倍。さ。る。光。根。も。あ。等。涉。る。と。鄙。也。強。倉。の。と。こ。を。知。れ。酒。二。杯。も。錢。も。小  
 飲。せ。と。い。小。觸。も。未。ず。天。四。海。の。蒼。生。と。惠。も。さ。上。小。人。の。心。と。つ。る。強。倉。刀。称。の。内  
 内。入。の。錢。金。の。小。酒。飲。で。も。よ。と。い。何。時。の。世。小。誰。と。極。て。ま。う。や。無。每。の。狂。言。の。ん  
 より。傾。置。て。往。り。吾。懐。小。物。あり。亡。も。知。ぞ。口。様。酸。の。甘。の。活。物。小。雜。僻。付。て。も。ち  
 食。ひ。一。さ。び。小。身。の。腹。小。入。り。返。さ。ん。と。得。返。さ。ん。と。飽。ま。を。朝。け。言。葉。の。端。も。憎。ま。も  
 憎。ま。と。ま。も。身。小。大。事。の。要。用。あり。元。来。已。が。過。失。と。思。ひ。か。へ。て。猶。種。と。言。葉。と。竭  
 ち。陪。話。と。可。い。果。益。声。と。光。棍。上。侯。白。と。散。小。悪。口。す。れ。が。の。時。湯。島。赫  
 と。急。ま。て。酒。氣。上。分。小。頭。上。六。升。身。の。怪。も。ち。志。も。傾。て。刀。の。柄。へ。と。り。身。の。誤

言と竭して分鮮すれど。さうとるびをも詮す。其ごと光棍と侯白よと  
 武士小対ひて雑言過言。そや少捨小有りごと。と言ひ果て抜んとす。その晩駈系と  
 推留め。やよ者とも理不尽の。狡侍と搦めよ。呼り声。少敢。かの土壺小四坐  
 する。轎丈馬奴五六人破教馬。うい。踊。入。身構ひ。折るれ。應。回合の間  
 も。ゆ。せ。ま。前後左右へ群。追。搦。湯島二期の浮沈と。身と。送。巡。足。踏。あ  
 て。衝。ま。あ。り。刀と抜。放。て。ど。泥。の。如。く。小。醉。さ。う。身。の。筋。骨。弛。く。自。在。と。い。え。ど。眼。と  
 睜。の。こ。ろ。と。う。圍。と。う。轎。丈。ち。ち。が。矢。度。小。刀。と。扱。放。在。あ。り。索。め。と。捕。足。捕。ら。う  
 拵。小。あ。り。じ。う。心。跡。武。小。早。ま。ど。の。屠。所。の。羊。の。ま。る。心。悔。む。と。詮。方。り。當。下。主人  
 音。あ。げ。眼。と。怒。り。一。信。と。白。眼。て。あ。の。と。孫。倉。刀。称。の。心。内。ら。ど。欺。き。威。す。い。吾。と。い。と。も  
 畏。の。鄙。人。と。侮。り。犯。す。の。こ。ろ。と。果。い。醉。狂。ひ。の。又。物。三。昧。い。う。る。意。趣。あ。て。誰。と。う。砍  
 る。油。の。や。う。酒。一。升。舎。利。小。多。り。飲。五。杯。喰。せ。た。代。小。飲。と。て。鄙。人。で。も。馬。借。小。合。す

い。き。ぞ。う。い。袋。の。嵐。猫。と。して。慰。ま。ん。あ。く。太。儀。ま。る。此。處。で。献。酌。ん。は。筒。茶。碗。を。さ。り  
 把。て。飲。で。う。湯。島。の。時。小。全。身。索。小。拵。つ。け。ら。う。と。動。く。も。ま。る。さ。れ。ば。只。骨。呆。れ。て。物  
 も。ひ。た。い。當。下。か。の。轎。丈。多。う。主。小。對。ひ。言。を。う。這。奴。憎。さ。思。け。し。と。ど。他。小。悪。三。夜。せ。い  
 小。あ。あ。刀。の。抜。と。も。傍。侍。小。傷。ら。れ。る。者。あ。り。と。夜。の。三。更。小。向。と。も。以。後。の。懲。と。も。あ。り。小  
 あり。息。杖。四。五。本。食。い。て。追。放。さ。ん。如。何。小。と。い。ふ。主。人。も。今。の。五。分。の。酒。氣。元。小。衝。え。ち  
 あり。汝。の。通。ア。辛。き。目。え。せ。て。逐。放。つ。う。他。の。も。と。其。棒。さ。く。出。せ。と。か。の。息。杖  
 と。あ。つ。拵。て。拵。ん。と。す。る。湯。島。の。悔。と。辭。さ。ん。方。も。あ。り。身。と。足。搔。と。も。手。小。助。の。索。小。搦  
 め。ら。ま。る。魚。屋。の。鳥。ま。と。如。何。と。も。術。い。う。主。人。の。漢。去。棒。り。揚。卷。の。脅。力。と。究  
 め。既。小。敷。ま。ん。と。あ。け。ら。う。此。方。の。隔。紙。と。も。閑。て。右。小。雪。洞。提。つ。や。と。俟。主  
 人。の。ふ。と。あ。り。と。怒。り。け。ら。ま。て。又。か。ま。ま。の。霄。小。宿。り。旅。人。あ。て。其。名。何。と。あ。り。よ。弓。真  
 弓。執。り。武。士。の。孫。倉。松。と。も。ま。る。と。う。その。年。齡。も。若。う。ん。四。十。の。改。と。あ。ら。ま。の。五。十



015



いづみ

小近くつえぬるまづその棒と傍かかせ吾仮初の宿りあて拘らるる死なれあ  
 ねど相見送の由縁として以て捨らば最前より動静と彼処でまき酒食と做  
 るて錢とちかき往きんとすと誠むとそうその商人の恒りて此方より非道にあま然  
 とも吾思ふ苟より一錢の貯りて酒食と食負老いあし開いその人あまふは此  
 入心も然らば殊小夜目あて面体と定ふ夫ともは難かりしが今近寄てよく初  
 小在下縁て認りてしむと知已さすといふ所同後倉倉住り思ひ他  
 過んへとも快くはさす其酒の代在下あて償ひてんまづその素の解まど不礼  
 と陪話よと雪洞と其処小置のゆ索と解の湯島沸太郎へも安堵するの  
 瞳と定めてよりと誰ともあま不精の暗ねと急難と救つては城  
 あま小額の汗を拭ひもあま所同後倉倉住り人へ宣へと吾の面と認り  
 あまあれども今宵の時宜計らぬ庶勿心の憂耻と救ひつる辰守るさ娘といふ今更

小面ぶせあていこの小此方の武士もその処小坐として認りてそ道理るれ在下の  
 蔭もあは倍臣の下臆るりこれとも武士の端まられ相見送とせりありいづく主人の  
 賔客を酒の價の許を今預拂ひはせんが夫小就ていりあり價と取て物と活  
 是商人の恒りて引刺し出會奪りとも心着てと武士の詞と里ていりとも可也  
 捕足捕縛りて猶そのう小棒とめて辱めんとする不仁といふ餘りありその價は  
 小償の汝們小言分あはしをせよの賔客が為小耻辱と雪ぐ覚悟せよといひも  
 果ぬ主人の漢士北叟笑に在下の小民なりともまねの理と知ぎんや知ら何故  
 斯のどれと詰りて答もせん博識人小聞とあり堯舜の民の堯舜の心とつてか  
 する由多質直りて曲まること傑紂の民傑紂の心とつて心とする多暴虐りて直  
 り今泰平の世小ゆるもその政柳營不出を獨北條氏権と執てこが非道へ行  
 人北條氏のあるを知りて將軍家のあまもあま於て人の心只権勢と運むて貪り



掠むるごとく言とれ。兩刀とて帯にぬき。北條刀称の内なき。偽構えて酒食を食ふ。  
 或い金銀米錢まで掠め取らんと巧む者。徘徊するに数回あて。背悞るのみと若も  
 まご真その筋の人なき。後の祟やあんと。思はせてその意不陸ふあり。その賓客も  
 その始め名とそいね。孫倉中。三の人の臣下なりと。まづ其権を倚ふる。備とそ例の  
 狡者あり。あとも痛く計らぬのゆて。強小武士と侮り。犯すの心不あ。まご系しんと  
 いひ放ち。自若する面魂。凡者るよと。うけま。その武士も重ねてい。沸太郎い  
 已が主の北條家と悪さる。ふのひ罵らして。心中不怒。さとの明地。使ふ。丁身不あ。  
 ぬと顧るのころ。まご。あ武士の何者。あ。若。凡。そ名。謁する。時。且。不。あ。は。是。の。ま。ご。面  
 倒るりと心不汲。と故意と呵。とち。知。ひ。北條刀称と。然。の。ころ。奸。佞。の。あ。る。れ。當  
 時。威。勢。が。強。け。ま。せ。の。嫉。と。思。さ。る。ふ。の。ひ。做。を。族。も。多。る。と。の。ひ。ひ。此。方。の。ち。對。ひ  
 在下。が。為。小。這。奴。等。と。懲。あ。て。耻。と。雪。が。せん。の。好。意。の。嫉。く。存。お。ま。ご。も。実。在。下。懷。

中。小。有。う。ころ。も。あ。る。と。酒。食。と。做。せ。い。此。方。の。鹿。忽。被。等。が。无。礼。と。太。く。咎。め。ば。尋  
 で。麻。勿。心。も。見。ら。ず。理。れ。ば。是。ま。で。め。唯。止。ま。ん。と。思。ふ。の。と。右。の。價。は。足。下。より。在。下。估。と  
 借用せり。さると孫倉へ飯。とて。後。何。方。へ。返。言。ま。ん。苦。く。は。貴。客。の。姓。名。以。り。人  
 と。い。ひ。け。ま。は。の。武。士。の。頭。と。ち。揮。ま。ず。争。ま。あ。及。ぶ。ま。心。不。あ。け。ま。ひ。そ。若。縁。尺。を。再  
 會。の。期。と。あ。ら。は。如。何。と。も。報。ひ。と。做。ま。ず。急。ぎ。の。旅。と。や。ら。ん。子。の。刻。も。も。近  
 傾。く。ま。出。る。ふ。べ。い。の。湯。島。強。て。も。同。志。然。ら。ば。その。議。不。從。ひ。好。意。と。默。止。不  
 宜。ふ。如。く。ま。の。旅。登。夜。の。差。別。も。あ。り。の。ひ。と。て。帯。ひ。き。孫。倉。の。兩。刀。腰。下。に  
 挿。し。と。猶。厚。く。禮。と。述。迹。と。も。り。ま。ご。と。出。て。行。主。の。漢。士。の。迹。を。送。り。呵。と。ち。ち。笑  
 ひ。く。世。の。い。ま。よ。く。空。戯。さ。る。狡。者。の。あ。る。あ。の。腰。小。兩。刀。あ。り。ま。ご。錢。も。持。た。ず  
 飲食。做。し。他。の。助。不。枯。鹿。と。と。触。不。逐。ま。鼠。不。芥。一。尾。と。揮。て。逃。出。ま。孫。倉。中。の  
 三。と。稱。ま。人。の。家。隸。と。い。ひ。ま。ご。三。と。あ。ら。北。條。と。和。田。島。の。人。と。箇。程。不。覺。る。家。隸

と持たふと笑止まれ。まこ呵ことうちを大ひ心着て此方とあり向き賓客今宵の  
異なとて園らぬ造作と懸まわじり。折渠と認る人と向ふ作の誠あありや何  
この家の郎等と。同きて此方の武士がち點頭て吾も定ふ其姓名を知らね  
ども北條刀称の内なる。如何なる助ゆ夜陸ふ及ひ何方とて急ぐふ凡そ北  
條刀称が當時の威勢。將軍家も猶ちよる故ふの家不仕る者名も下臈  
も威と揮ひあち諸人と迷惑せむ我ら今宵その身も深く深き過るも  
せよか。穩便ふ去り足下等が僥倖あり。思ふ渠の密事の使ひゆえりぬる也。  
然もあまの錢を以て此はふの済まなきあはしり。今も北條笑賓客は北  
條刀称と太く怖らるる。開官録の故る人吾は野外の小人百東西と首で  
賣る。僅の利とてその目と送る上主君との者も下春属といふのあれば。権  
貴もあまの怖らるる。怖らるる雨風ふ。往來途絶え。其日あは。鏝一文の商ひ。仕人

魚の餞まゆ。あまのこを怖らるる。呵ことうちを大ひ心着て此方とあり向き賓客今宵の  
りのお美らと。今宵の二奉の賓客心もよて彼此とも不穩多。済し僥倖あり。  
その歡ひ不残の散で。夜と俱不飲明え。是等の者いりる里あて。牛馬もあちと  
勸ら。賃錢囉めてその日と送る。無下不殘さりのともなれば。礼作法にえりあち。  
无礼と許して未席侍ら。うら慶るんと。いふ武士あち。點頭鄙人。二奉勸无  
骨られども正直めて心のまう。方いり。結の楽さりのあり。去来も。此処まで二献  
酌やと唆る。さびと下坐。四居。宴時酒宴と做ける。この家の主人と人。哥ソと  
称へ。そ教る。まて大なる。い主の渠を。今親と。宛然奴僕のまう。そのま如何  
ふ由縁ありげ。ま。凡者不。い。あ。武士の貌と改め。始めの家へ宿。一  
時より。今。あ。ま。足下。奉勸。心と着て。ま。ね。未。か。活。斗。し。世。と。送。る。ま。き  
人品。ま。思。ふ。深。き。故。あ。る。し。な。仮。初。の。旅。宿。も。素。性。と。同。ん。卒。雨。不。似。ま。き。と。

苦ううん月一りひひ笑て先人の姓名を問んとする吾より先名掲はれり。柝  
 され強倉ある。和廷尉の臣下して腰截獸六郎と云ふもの。その身短才無能小多。  
 数年彼家不在る。しま下鴨の域と離るる名湯も面目なき業あり。這回相夷多  
 秀めり。使ふまで越のふらる。岩林より所赴き。是より強倉へ飯さる。足下等も及  
 びつん。和田殿一家いへる英雄多。何ぞ思ひるさりのま。朝夷めい殊さ。不深出の  
 弱官あり。近き頃まで諸と遊行し。その先か功名と著し。やの辱ありき。まう先  
 頃鎌倉へ飯さるひて程もき。將軍家の昵近不擇り。入と隨從る。水草城戸の西士  
 の。その家隸と称すれども。是より恩顧の者あり。あま。信士の莊司が舊臣多。仮小臣  
 下の列あり。あまの世の埋り。隠るる小英雄あり。若然なる人のあふ。臣下小  
 せんと縁ても。望むる所なれば。か曲向の。その未歴と云曲小説。論せ。此処の  
 主の欣然と云。貌と正。さ。宿客は和田刀称の家隸と在る。宣ふ如く朝夷刀称の  
 武勇の懐て。及び縁と需めて。一回見合せ。原さの。聊仕出。推参見  
 る。拙さ。街小似れば。果さ端る。も貴客と宿。且今宵の騒ぎ。ふらう。  
 かる條と兼ること。才小。侍の。折ふ。あ。推奉と恃。言さる。在  
 下。去。年。木曾殿。俱利伽羅。峠。平家の。大軍。と。好。と。た。その。小。属。と  
 高名あり。岡田の。冠者。李の子。む。幼名と。別若。といひ。さ。然。ふ。當。下。又。村。者。軍。將。知  
 教と。組。討。を。俱。深。溪。へ。陥。ひ。て。泉。下。小。徴。忠。と。尽。せ。り。の。う。功。の。あ。ま。と。も。賞。を  
 う。け。ま。在。下。その。た。五。歳。あり。て。母。の。懐。小。抱。ま。り。信。濃。小。あり。か。程。の。う。木。曾  
 殿。栗。津。小。失。り。ひ。て。刺。へ。清。水。義。高。も。害。さ。れ。り。程。な。れ。ば。餘。黨。の。詮。鞏。嚴。く。て  
 故。郷。小。足。と。駐。め。が。う。此。処。小。由。縁。の。人。あり。と。り。て。夫。小。便。り。て。母。諸。共。幽。小。送。り。て。時。と  
 俟。ふ。在。下。十三。歳。の。秋。の。頃。母。病。ふ。世。と。辞。つ。二。年。と。経。て。便。り。つ。人。さ。死。て。あ。の  
 家の。迹。と。嗣。へ。き。者。も。な。り。ま。り。里。入。の。勸。隨。意。と。即。其。人。の。迹。と。嗣。て。此。処。小





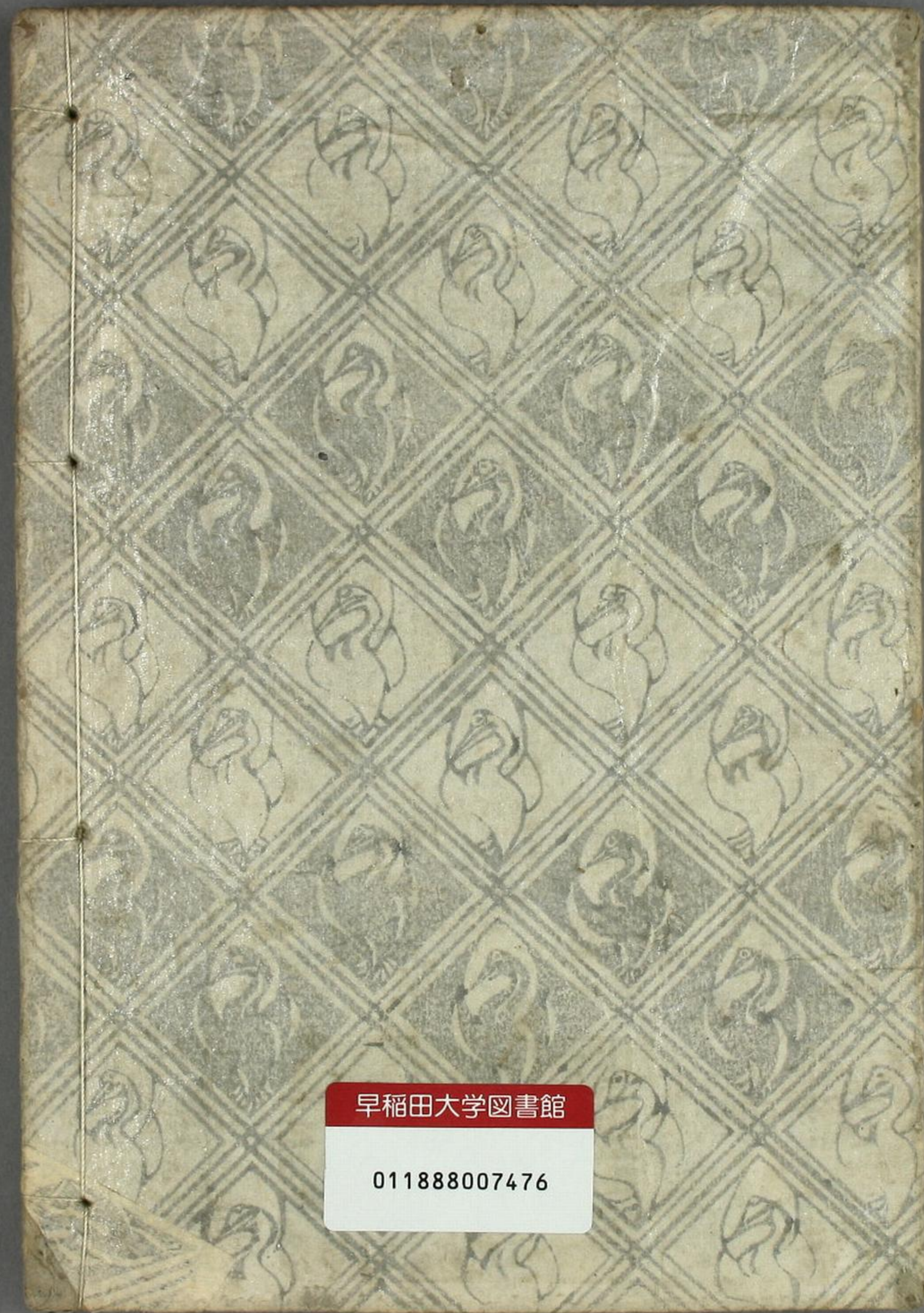
盤纏を失  
湯島酒店の  
窮乏

南夷七編卷二

る。在下と諸共鎌倉へゆきゆりん。然らば準備のその間、逗留するもの苦。と信実、あてのふと。猛公大敵びや、争這面の奇遇と黙止せん直る足下と諸共小鎌倉へ参るべし。汝達も如此心得よ。山居者小寺亦甘食一般小愛と。曾動もつて是を祝む。折々外方小音ありを潜り戸を引あり来る。西三個獸六郎が在る。左右を寄もつるを言葉もあきを在ける。傾て猛公と見やり。哥と多りけ。片蔭へはいま。猛公は坐して。彼処へかたて何。時依語ありける。猛公は渠等とて。獸六が前へ出未。かく互素性未。壘物がころう。何と累まん。在下適武門小生。生涯かて在ん。勇士の愧所る。一回ハ世不出で。祖先の名とも輝まん。縁て思へ。前の主猛公の不束。借銭の債数多あり。在下と嗣と。責らる。いと急る。れ。ま。兎角。て。償ふ。の。身。の。愿。の。財。用。足。ら。志。諺。の。切。取。強。盜。武。門。の。慣。ひ。と。受。る。れ。は。実。の。涉。り。と。

過る旅客錢ある奴と。る。路の上へ出て。と。奪ひ。志願の助。充る。といふ。未一人も。令。と。ま。で。其。賊。と。掠。む。の。然。る。と。這。奴。等。川。中。へ。盤。纏。数。多。と。齋。ま。旅。人。武。士。と。一。個。を。奪。ひ。と。高。強。と。掛。り。処。を。強。く。と。及。び。難。殺。さ。ば。安。き。と。る。れ。と。然。る。と。後。て。り。誠。め。お。き。と。守。り。組。り。序。を。武。士。が。胴。卷。外。へ。奪。ひ。と。各。小。川。へ。飛。龍。で。難。く。逃。ま。り。と。ひ。て。その。品。と。今。め。て。未。ら。思。ふ。小。筒。の。武。士。と。人。雨。ふ。ち。の。雨。ふ。ち。ま。ま。知。ら。ば。此。処。へ。未。ら。酒。食。と。做。す。も。因。縁。と。る。と。奇。と。と。ち。笑。ひ。儲。の。件。の。胴。卷。と。把。出。り。多。寡。と。改。む。れ。ば。砂。金。と。と。五。十。兩。近。曾。稀。と。獲。り。の。り。ま。ら。汝。達。も。領。兵。と。な。り。その。裡。と。改。む。る。と。その。表。書。の。密。書。と。の。記。し。る。書。翰。あり。い。ら。る。文。を。披。く。者。ん。と。燈。火。と。掻。き。と。あ。つ。披。く。と。す。る。水。泳。泳。で。破。さ。る。と。す。る。と。お。ま。る。其。俣。大。不。器。用。と。乾。く。と。言。ふ。と。四。言。と。あ。ひ。大。桶。と。り。て。未。ら。者。も。あり。要。時。殿。す。ふ。

大なる乾きぬらんと封おきも。徐々披き板敷裁てその文辨と讀下ま。這回  
 當所の強者と檢折らて下下ま。全く罪と負見為の。然れ。彼強者  
 頗る才智ある。これ万一首尾よく仕課して。歸らべり。威と張ん。因て家山賊へ  
 陥穿と構え。わき。渠も主従十四五個餘。其処へ陥る。その謀計を汝と使  
 小主。水舟の。夢も人の洩まへ。若この一挙甘謀ら。不日小賞と行ふ  
 べ。努々疎畧ある。う。ま。と。その。配。入。叮嚀。小記。下。書。小。あり。け。ま。猛  
 八。二。三。と。見。畢。マ。て。い。う。小。も。容。子。あり。氣。多。し。と。強。者。の。水。舟。の。と。何。ま。の。人。う  
 ち。ぶ。う。と。ま。ま。何。向。の。武。士。が。この。密。書。と。ま。ま。と。い。途。方。小。う。の。な。と。人。と。嘲。ま  
 笑。ふ。て。居。り。け。ま。



早稲田大学図書館

011888007476